

パブリックコメント意見募集の結果公表

帯広市教育基本計画（令和2年度～令和11年度）（原案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と帯広市教育委員会の考え方は下記のとおりです。寄せられた意見等を踏まえ原案を修正し、別紙のとおり最終案とします。

【意見募集結果】

案 件 名	帯広市教育基本計画（令和2年度～令和11年度）（原案）		
募 集 期 間	令和元年11月27日（水）～ 令和元年12月26日（木）		
意 見 の 件 数 （意見提出者数）	39件（21人）		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	6件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	4件
	参考	今後の参考とするもの	16件
	その他	意見として伺ったもの	13件
意 見 の 受 け 取 り	持参		2人
	郵送		2人
	ファクス		5人
	電子メール		12人

【意見等の内容】

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
1	<p>【計画全般】 この計画に、子どもの視点はああるか。「子どもの権利条約」の観点から計画全体を見直し、それが保障されている内容となっているか、チェックしてはどうか。</p> <p>子どもの権利条約 第29条【教育の目的】：教育は、子どもが自分のもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものである。帯広市の教育基本目標では、これが押さえられているか。</p>	1件	<p>【参考】 「子どもの権利条約」は、18歳未満のすべての人の保護と基本的人権の尊重を促進することを目的としており、本計画においても子どもの権利条約の「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つの基本的な考えに沿って策定しています。</p> <p>子どもの権利条約第29条については、基本施策2において、子どもたちが意欲的に学ぶ姿勢を育むほか、多様な考えを持つ人への理解・尊重などを進めることとしています。</p>
2	<p>【計画全般】 帯広市教育基本計画を決めるにあたり、市内の子どもたちの意見を募集し、それらについて検討するというのも一案だと思ふ。</p>	1件	<p>【参考】 市内の小学校5年生とその保護者、中学校2年生とその保護者及び市民を対象とした教育に関する意識調査を行っており、調査結果を踏まえて本計画を策定しています。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
3	<p>【計画全般】</p> <p>障害の「害」の字を意識的にひらがな表記するよりも、ノーマライゼーションの理念を進めていくため、また道内の身体障害者団体が様々あるが、漢字表記が主流となっていることも踏まえて、常用漢字を使用した表記にしたほうが良いと思う。</p>	1件	<p>【修正】</p> <p>障害の「害」の字の表記については、「害」「碍」「がい」などが用いられています。本計画は人づくりを基本目標として、成長過程や多様な価値観を尊重した施策の展開を目指していることから、こうした計画の特性を考慮し、原案においてはひらがなの表記としたところではあります。</p> <p>今般、帯広市障害者計画策定における論議を通じて、当面「障害」を表記する際に漢字を用いることとする考え方が整理されたことから、本計画（案）においても漢字で表記することとします。</p>
4	<p>【計画全般】</p> <p>前回の教育基本計画との違いがわかりにくいので、【新規】【継続】【改善】等の目印などを加えてほしい。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>本計画は「めざす姿」を新たに設定しているほか、基本目標、基本施策、個別施策の考え方や体系が、前回の教育基本計画とは異なります。</p> <p>主な取り組みは、複数の事業を総括的に記載し、施策の方向性を示すものもあることから、新規または継続といった表記を統一的行うことが困難と考えております。</p>
5	<p>【基本理念】</p> <p>「AIをはじめとする急速な技術革新やグローバル化の進展」とあるが、社会が大きく変化していく中で、日本の教育は教育先進国から取り残された教育方法であり、今までの教育の在り方を抜本的に見直す時代が来ていると感じる。</p> <p>個々の個性や意欲に丁寧に向き合った教育方法が求められており、世界一の教育を受けることができる環境を整えば、多くの人に移住してくると思う。</p> <p>勉強はさせるものではなく、自分の意欲によってのみ、身になる学習が行われるものと考え、意欲を引き出す事にフォーカスした、教育環境の整備を基本計画に入れると良い。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>子どもたちが学習の基礎・基本を身に付け、活用することができるようになるためには、子どもたちが自ら学ぶ意欲を持つことが重要と考えています。</p> <p>本計画においては主に「個別施策6学びを生かす力の育成」に記載しており、実施にあたって、子どもたちの能力や特性に対応する教育や一人ひとりの学ぶ意欲を引き出すことに配慮し、進めていきます。</p>
6	<p>【個別施策3】</p> <p>近年では、共働き世帯も増え、保護者が家を留守にしている間、スマートフォンでゲームをする子どもが増えている。そのため、現代の子どもは近視が多くなってきていることが世界的な問題となっている。スマートフォンだけが原因ではないが、外に出ないと近視になるとの研究もあるので、情報教育の推進と同時に外遊びも推進してほしい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>自分専用の情報通信機器を保有する子どもが増加する中、長時間使用による視力の低下が懸念されます。</p> <p>このため、スマートフォンなどを長時間見続けることのリスクについて、子どもや家庭へ周知・啓発するほか、運動能力の向上や体力づくりに取り組むとともに、地域とも協力し体験活動機会の充実を図ります。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
7	<p>【個別施策3】 子どもの権利条約第 17 条【適切な情報の入手】：子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手にいれることができる。 国は、マスメディアが、子どものためになる情報を多く提供するようにすすめ、子どもによくない情報から子どもを守らなければならない。 「個別施策3」では、危険から身を守るための SNS のマナーなどは、家庭任せにするのではなく、学校の情報教育で学ぶようにしてはどうか。</p>	1 件	<p>【既記載】 自分専用の情報通信機器を所有する子どもたちが増えており、安全な使い方を身に付けることは、子どもたちの良好な人間関係の構築や、身の安全を守るためにも重要と考えています。 このため、本計画 P19 の「2 情報モラルの育成」において、総合的な学習の時間や道徳の時間を活用するなどし、発達段階に応じた情報モラルの育成に取り組みます。</p>
8	<p>【個別施策3】 幼児期からスマートフォンなどを使用することによる脳への影響や社会性の欠如など、親への啓発やルール作りにも取り組んでもらいたい。</p>	1 件	<p>【既記載】 子どもたちが情報通信機器を漫然と使用することがないように、本計画 P41 の「2 家庭教育力向上のための支援」において、インターネットやスマートフォンの使用に関するルールやマナー、危険性などについて保護者の理解を深める取り組みを進めます。</p>
9	<p>【個別施策3】 幼児～低学年期は実体験等を最優先とし、その上でプログラミングなどの技術を習得しなければ、地域社会の一員として社会的な生活を送る基盤が整わないと考えるため、低学年期からのパソコン授業やプログラミング教育には反対である。</p>	1 件	<p>【参考】 子どもたちが社会の一員として必要な資質・能力を身に付けるためには、社会との結びつきを意識しながら実体験を通じて学習することが重要と考えています。 学びにおける子どもたちの理解を深め、学習の成果が最大限発揮されるよう、成長段階に応じてパソコンやタブレット端末などを効果的に活用しながら学習を進めていきます。</p>
10	<p>【基本施策2】 子どもの権利条約 第 12 条【意見を表す権利】：子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっており、その意見は、子どもの発達に応じて、十分考慮されなければならない。 帯広市の「基本施策 2 変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成」のためには、上から何かをさせるのではなく、子どもと一緒に考え、作っていく学びの場が必須であり「子どもの声を聴く」機会の保障について記載してほしい。</p>	1 件	<p>【参考】 子どもの声を聴くためには、子どもたちが自らの思いや考えを言葉で伝えられるようになることが大切と考えています。 このため、学校においては、子どもたちが主体的に学び、多様な意見を出し合う授業づくりを進めており、今後も、子どもたちの声を聴くことや、子どもたちが学び合う場を大切にしたいと考えています。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
11	<p>【個別施策5】 南商業高校の検定3種目以上1級取得率80%の目標値は少し高すぎるのではと思う。南商はテストの数も多く、それプラス検定となると生徒の負担が大きすぎる。毎月テストがあるような感じなので、生徒のやる気も損なわれると思う。</p>	1件	<p>【修正】 全国商業高等学校協会が主催する検定の級を取得することは、地域で活躍する人材育成に資するものであり、合格率は全国や全道の各高等学校における検定の取得状況と比較が可能であるため、本計画（原案）において指標としたところですが、地域で活躍する人材育成に小・中・高において一貫して取り組む観点から、指標を修正します。</p>
12	<p>【個別施策5】 南商業高校の3種目1級取得率を80%にするのは高みを目指しているという面では良い事だと思うが、南商は部活動も勉強も検定取得にも力を入れていて、多忙な毎日の中で80%を目指すというのは少し生徒の負担が大きいのではないかと思う。</p>	1件	
13	<p>【個別施策5】 南商業高校の検定3種目以上1級取得率の目標値が80%になっていることについて、今の目標値の75%すら危ういのに、これ以上上げても生徒側がついていけないと思う。検定3種目以上1級取得率は誇らしいものだが、学生生活ですべきことは検定取得だけではなく、普段の定期試験も忙しく感じる人や部活動が検定に重なってしまう人もいる。 目標を実態に見合ったものにするべきだと考え、目標値は令和元年度の「75%」に留めておくべきだと思う。</p>	1件	
14	<p>【個別施策5】 検定の内容はすべての就職に有用なものではなく、生徒の希望は就職と進学が半々の現状に合わないことから、機械的に検定3種目1級取得を8割の生徒に求めるのは無意味と考える。また、検定は有料で検定料は自己負担であり、行政の目標を実現するために、検定取得が不要な生徒が自己負担を強いられるのは不当と考える。 よって、帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率80%以上を目指す目標設定について見直しを求める。 成果指標項目の提案と理由については次のとおりである。 成果指標：卒業生の満足度 理由：進学就職を問わず、生徒自身が適切な支援や励まし、情報提供を受けたと感じているかを問うことが可能であり、その後の学校の取り組みを改善する上で有益と思う。新たにアンケートを取ることが困難な場合は、学校評価制度の項目に追加して実施することも可能。また、満足度の回答だけでなく、任意の記述回答を求め、その結果と分析・対応策の公表が有効だと思う。</p>	1件	

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
15	<p>【個別施策6】</p> <p>十勝では少人数学級やTT（授業において複数の教員で指導を行う方法）を行っている小中学校がたくさんある。また、旭川市では、小1から小4まで少人数学級編制を行っている。計画では市独自の取り組みがよくわからないため、わかるように載せた方がよい。</p>	1件	<p>【既記載】</p> <p>本市においては、国や道の制度を活用して少人数学級やTTを実施しており、指導方法の工夫・改善を図っています。</p> <p>子どもたちの学習意欲の向上を図るため、本計画P27の「1学校における授業の工夫・改善」において、小学校における一部教科担任制の導入などの取り組みを進めます。</p>
16	<p>【個別施策6】</p> <p>「教育課程」は教育に関する専門用語と思われるため、解説を加えてほしい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>「教育課程」を含め、必要と思われる箇所については、用語解説を加えます。</p>
17	<p>【個別施策7】</p> <p>各学校の司書教諭は兼務であるため、必要な司書業務が遂行されていない。図書ボランティア活動は盛んであるが、ボランティアと専任司書は役割も能力も違う。教職員の働き方改革の観点からも、専任の司書教諭の配置を進めてほしい。</p> <p>以上のことから「学校司書の役割の実現に向けた検討を進めます。」を「学校司書の配置の実現を検討します。」とすべきである。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>司書教諭については、北海道都市教育委員会連絡協議会を通じて北海道教育委員会に対して専任の司書教諭としての配置を要望しています。</p> <p>引き続き、文部科学省の「学校図書館ガイドライン」なども参考にしながら、魅力的な学校図書館の運営を進めつつ、学校司書の配置については、多様化する教育に関わる行政需要を見極めながら検討していきます。</p>
18	<p>【個別施策8】</p> <p>子どもたちの体に様々な変化が起こり、性に関心を持つ時期に、インターネットなどの情報だけが先行し、性に対する歪んだ知識が植え付けられることは危険である。</p> <p>学校教育に性教育を位置付けることが大切と考えることから「個別施策8 健やかな体の育成」に性教育の実施を記述すべきである。</p>	1件	<p>【修正】</p> <p>学校においては、保健体育や道徳などの授業を通じて、子どもたちが性の多様性や性に関する正しい知識を身に付けるための教育を行っています。</p> <p>インターネットの普及により様々な情報の入手が容易となる中、発達段階に応じた適切な指導を進めていく考えであり、いただいたご意見を踏まえ、修正します。</p>
19	<p>【個別施策8】</p> <p>フッ化物洗口は安全性が高いとはいえ、むし歯の無い子どもたちに化学物質を暴露させ、教員の負担を増やし、一人の子どもが複数のむし歯を持つ口腔崩壊に近い子どもたちへのアプローチがぼやけてしまう。</p> <p>口腔崩壊の背景には、貧困、家庭問題などの課題があり、そのような児童を検診時に発見し、学校、歯科医、家庭、教育委員会、市の福祉部門などが協力し丁寧に対応すべきである。よって、フッ化物洗口を削除し、歯科衛生の取り組みに置き換えるべきと考える。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>フッ化物洗口は、厚生労働省の調査研究において安全性及び効果が認められています。また、北海道においては、学校でフッ化物洗口を実施することにより、家庭環境等の社会的要因にかかわらず長期的にむし歯予防・歯質強化を行うことができることから「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」の制定や「北海道歯科保健医療推進計画」を策定し、学校におけるフッ化物洗口の実施を推進しています。</p> <p>こうした取り組みを受けて、本市においてもフッ化物洗口を推進するものですが、実施にあたっては保護者に対して丁寧な説明を行うとともに、保護者の同意が得られた児童生徒のみを対象としています。</p> <p>なお、歯みがき指導などの歯科保健については、各学校の保健だよりなどによる周知啓発のほか、十勝歯科医師会の巡回歯磨き指導の活用など、学校保健活動の一環として取り組んでいます。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
20	<p>【個別施策8】</p> <p>学校におけるフッ化物洗口の実施について、アレルギー症状を発症する子どもが増える中、薬品を使用することは危険である。</p> <p>多数のむし歯があっても治療に通えないような家庭のケアや学校での歯科衛生士によるブラッシング指導の方が効果的と考える。</p> <p>「フッ化物洗口」がむし歯予防に効果があるとしても、むし歯は人から人へうつるものではないため、学校で集団実施する理由はみつからない。働き方改革に逆行するような、学校へのフッ化物洗口の導入はやめて、教育予算のより有意義な活用を選択してもらいたい。</p>	1件	
21	<p>【個別施策8】</p> <p>健康教育・健康保持の項目で、歯磨き指導など、大きな予算をかけずに確実に、平等にできる事があるのに、様々な危険性に対する指摘もある中で、集団で行う方法として「フッ化物洗口」にフォーカスした文言を基本計画に入れるのは見直すべきと考える。</p>	1件	
22	<p>【個別施策8】</p> <p>フッ化物洗口は薬剤を使った医療行為であり、必要な人が個別に医療機関で受けるものなので、学校現場で行うものではないと考える。</p> <p>また、歯科保健指導（例えば歯みがき指導や歯肉炎予防等）の推進といった取り組みの表記はないのに、唐突にフッ化物洗口の文言が明記されていることにも違和感を感じる。</p>	1件	
23	<p>【個別施策8】</p> <p>北海道の12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数は、この10年間で減少しており、平成29年度は1.2本である。帯広市は1本以下であることを考えると、フッ化物洗口により集団予防する緊急性、必要性は無く、その分の経費を別の施策に使うべきと考える。</p> <p>集団に対して薬品を使うことは、教職員に心身的な負担をかけることになり、事故が起きた時の対処や責任の所在が曖昧にされやすい。むし歯は、家庭における予防の意識づけが第一であり、むし歯予防の意識のない家庭に対してフッ化物洗口を行っても効果は期待できない。</p> <p>フッ化物洗口になぜ反対する人がいるのか、児童生徒にも知らせて、考える力を養う材料にしてほしい。</p> <p>これらのことから「フッ化物洗口」の文言を削除すべきと考える。</p>	1件	

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
24	<p>【個別施策 8】</p> <p>むし歯は、家庭における予防の意識づけが第一であり、むし歯予防の意識のない家庭に対してフッ化物洗口を行っても効果は期待できない。口腔崩壊の子どもを個別に救うことが先決と考える。</p> <p>集団に対して薬品を使うことは、教職員に心身的な負担をかけることになり、事故が起きた時の対処や責任の所在が曖昧となるため、教育現場で行う事業ではないと考える。</p> <p>北海道の 12 歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数は、この 10 年間で減少しており、平成 29 年度は 1.2 本である。帯広市は 1 本以下であることを考えると、フッ化物洗口による集団予防の必要性はないと考える。</p> <p>これらのことから「フッ化物洗口」の文言を削除すべきと考える。</p>	1 件	
25	<p>【個別施策 8】</p> <p>口腔衛生への関心の高まりや食生活の改善、歯磨き指導等により児童生徒のむし歯は減り続け、近年は過去最低を更新している。帯広市においても年々減少し、12 歳の永久歯の一人当たり平均齲蝕歯数は平成 29 年度は 1 本以下となり、薬品を使用した学校での集団予防の緊急性や必要性は全くない。</p> <p>使用する試薬・医療品による過敏症状、急性中毒の問題や、多種多様なアレルギーを持つ児童生徒に使用する危険性、加えて多忙化を極める学校における集団フッ化物洗口の実施は、安全性の確立も不十分で、教職員の働き方改革にも大きく逆行する。またフッ化物洗口は医療行為であり、希望者は歯科医の指導のもと保護者により個別に実施すべきである。</p> <p>以上のことから、「フッ化物洗口の取り組み」は削除すべきと考える。</p>	1 件	
26	<p>【個別施策 9】</p> <p>授業数の増加、教員の多忙化、道徳の教科化など子どもたちにとって学校が楽しい場所ではなくなってきているのではと心配している。教員の増員や少人数学級を進めるなど、一人ひとりの子どもに寄り添うための教育環境を整えてほしい。</p>	1 件	<p>【参考】</p> <p>教育内容の量・質の充実が図られる一方、教職員の多忙化の解消が課題となっています。</p> <p>このため、教職員の働き方改革を進めるほか、引き続き、北海道都市教育委員会連絡協議会を通じて北海道教育委員会に対して教職員定数の改善を要望します。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
27	<p>【個別施策9】</p> <p>子どもたちが成長し一人前の人間として自立していくために、少人数学級編成により、行き届いた教育を実現していくことができると考えられる。</p> <p>部活動については、子どもたちは朝8時から午後6時ころまで学校におり、土日に練習試合や大会等もあるため、顧問を引き受けている教員の大きな負担となっているため、具体的な改善策を講ずる必要がある。</p> <p>以上のことから、個別施策9の主な取り組みの2に市費負担教員の配置による少人数学級実施と部活動指導にかかわる教員の勤務時間の改善を具体的に記載してほしい。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>少人数学級については、国や道の制度を活用して実施しており、習熟度別学習や少人数指導などの指導方法の工夫・改善を図っています。</p> <p>また、部活動については、生徒の心身の成長へ配慮するとともに、教員の過度な負担にならないよう取り組む必要があり「帯広市立学校に係る部活動の方針」に基づき取り組みを進めます。</p>
28	<p>【個別施策9】</p> <p>先生方の働き方をみていると「この国から教員志望者はいなくなってしまうのではないか」という危機感すら覚える。</p> <p>このため、個別施策9は「教員の資質・能力の向上・大胆な業務の削減」と変更すべきで、施策としては、教員向けスピードスケート教室の開催などではなく、ALTの一層の充実、地域体育指導者の育成、施設管理の移譲などであり、新たな英語教育や体育指導、施設管理などは地域に移譲してよいのではないかと。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>個別施策9の表題は、教員の資質・能力を向上させることを目的とした施策であることを示しています。</p> <p>教員の業務削減は、個別施策を達成するための取り組みの一つとして考えており「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」に基づき、学校の実態に合わせた業務の見直しや平準化、効率化と併せて取り組みます。</p>
29	<p>【個別施策9】</p> <p>教員の労働時間が過剰になっている現状があり、市内の学校では働き方改革が推進され、家庭訪問をやめる、参観日を減らす、といった動きがあるが、例えば、集団フッ化物洗口（賛否両論あり、本来は希望者だけが歯医者で行うべきこと）などを見直すべきで「本来業務ではないことを極力減らす」方向に進んで、教員の働く環境改善により、先生方の幸せ度、やる気をアップさせてほしい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>教職員の時間外勤務の縮減については「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」において目標を定め、業務見直しなどの取り組みを進めています。</p> <p>教員の業務量が増加する中で、子どもたちに向き合える時間をより多く確保できるよう、今後も様々な方策を検討しながら教職員の働き方改革を進めていきます。</p>
30	<p>【基本施策3】</p> <p>子どもの権利条約第31条【休み、遊ぶ権利】：子どもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加する権利をもっている。</p> <p>「基本施策3地域とともに育む教育の推進」では、学習面のフォローといったニュアンスが強いように受け取れるが、子どもたちの「こうありたい」「やってみたい」という思いや声を大切に、数値化することのできない「非認知能力」を育むための活動（ともに遊び、つくり、奏で、表現するアートや自然体験）を推進するための連携といった側面から記載してほしい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>子どもたちが様々な物事に興味・関心を持ち、主体的に取り組もうとする姿勢を育むことは、今後の教育においても重要であると考えており、基本施策3はその実現に向けて学校・家庭・地域が連携・協働して取り組む施策と考えています。</p> <p>学校支援地域本部事業やこども学校支援地域基金プロジェクト、放課後子ども広場など、地域やボランティアの協力を得ながら、子どもたちの様々な体験活動の機会の充実を図っていきます。</p>
31	<p>【個別施策10】</p> <p>ボランティア・コーディネーターの成り手不足は切実な問題だと感じているので、気軽に・無理なく・長期間、関わることのできる人が増えるよう、具体的な支援をお願いしたい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>ボランティアやコーディネーターの成り手不足を解消するための取り組みについては本計画P38の「1地域における支援体制の充実」において取り組みを進めるほか、PTAとの連携強化に取り組めます。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
32	<p>【個別施策10】 めざす姿として「地域の人たちが子どもたちの教育に積極的に関わり」とあり、現状と課題には「活動の中心となる担い手の育成や成り手不足の解消に取り組む」とあるが、具体的な対応策はあるか。 乳幼児期から親同士が学び合い、子どもたちが遊んで育つ環境を整えるなど、子ども親も成長できる子育て支援拠点が広がることを切望する。</p>	1件	<p>【その他】 ボランティアやコーディネーターの成り手不足を解消するための取り組みについては本計画P38の「1地域における支援体制の充実」において取り組みを進めるほか、PTAとの連携強化に取り組めます。 また、望ましい家庭教育を進めるためには、乳幼児期からの取り組みを継続的に進める必要があり「帯広市エリア・ファミリー構想」において、中学校区内にある幼稚園・保育所、小・中学校の連携に取り組むほか、関係機関や関係部課との連携を図っていく考えです。</p>
33	<p>【個別施策10】【個別施策11】 家庭教育力向上のための支援は、小学校入学後では遅すぎる。乳幼児期の親からの継続した支援、啓蒙、地域との関わりを推進する必要がある。 そのため、地域（少なくとも中学校区に1か所）の中に乳幼児から小中高生や地域の人々が集うことができる居場所が必須と考える。 地域コミュニティの中で子育てをすることで、自分の子どものことだけを考えるのではなく、PTA活動や地域の活動にも目を向けることができるようになる。コミセンや福祉センターを利活用するなど、生活圏での多世代の居場所づくりの検討を希望する。</p>	1件	<p>【その他】 望ましい家庭教育を進めるためには、乳幼児期からの取り組みを継続的に進める必要があり「帯広市エリア・ファミリー構想」において、中学校区内にある幼稚園・保育所、小・中学校の連携に取り組むほか、関係機関や関係部課との連携を図っていく考えです。</p>
34	<p>【個別施策11】 子どもたちの基本的な生活習慣の確立は、保育所・幼稚園時期から始まっていると考えるのが普通であり、小学校に上がってからでは遅すぎると考えるので、行政は保育所や幼稚園との連携を強化すべきではないか。</p>	1件	<p>【参考】 本市においては「帯広市エリア・ファミリー構想」において、中学校区内にある幼稚園・保育所、小・中学校の職員の合同研修、情報交換を実施しているほか、保護者を対象とした講演会の開催を行っています。 また、保育所等の関係者会議に市職員が定期的に出席するなど、引き続き連携を図っていく考えです。</p>
35	<p>【個別施策11】 インターネットやスマートフォンの使用上のルール、マナー、危険性などについての理解は、関心を持つ保護者だけが参加する講習会では意味がなく、すべての保護者が集う機会を利用して、厳しい態度で臨むべきと考える。 また、SNSに関する事件や、ゲームの依存症問題などは、大人の責任によるものであり、地域の保護者が連携すれば子どもの命と健康が守られるという視点を強く打ち出していきたい。</p>	1件	<p>【参考】 情報化が進む中、子どもたちが適切に情報通信機器を扱えるようになるためには、情報モラルに関する保護者の理解促進が重要と考えており、保護者を対象とした講習会のほか、リーフレットの配布などにより、インターネット等の利用について、子どもの安全を守る意識の浸透を図っていきます。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市教育委員会の考え方
36	<p>【個別施策 11】</p> <p>家庭教育学級は、かつて各小・中学校で盛んに開催されており、大変勉強になった記憶がある。既に、無くなってしまったのか、別な形で行われているのか、わかりやすい記載をお願いしたい。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>家庭教育への支援は、子育てに関する学習機会や情報の提供、相談などにより、学校や地域が連携して、子どもたちのよりよい育ちへつなげていくものと認識しています。</p> <p>このため、本計画では「基本施策3地域とともに育む教育の推進」や「基本施策5自ら学びともに支える生涯学習の推進」などにおいて、家庭教育学級を含め幅広く取り組みを進めていきます。</p>
37	<p>【個別施策 13】</p> <p>子どもの医療費助成、就学援助、奨学金制度の充実など経済的な支援が、成果指標の目標達成には欠かせないと思う。</p>	1件	<p>【既記載】</p> <p>子どもの教育機会を確保するため、就学援助や学資の貸与などを行うこととしており、本計画 P46 の「3教育機会の確保」において取り組みを進めます。</p>
38	<p>【個別施策 18】</p> <p>心豊かに生きるために、文化芸術活動に接する機会の有無は、暮らしやすさの指標として重要と考える。</p> <p>メディア時代を生きる子どもたちは、自分自身の感覚を大切に抱きながら、想像力豊かにたくましく生きる力が一層求められることから、子ども向けの鑑賞体験機会の創出を講じるべきで、優れた舞台芸術作品の招へい、市民参加のバレエ、オペラにとどまらず、親子で誰もが参加できる企画が必要と考える。</p>	1件	<p>【参考】</p> <p>文化芸術活動は、子どもたちが想像力や感性を育む上で大きな役割を担っていると認識しており、令和元年度は子ども向け音楽会やミュージカルなど「子ども向け鑑賞事業」を実施しています。</p> <p>引き続き、子どもたちが心豊かで健やかに成長していけるよう、市民協働による取り組みを進め、良質な文化芸術に親子で触れることのできる鑑賞の機会を提供していきます。</p>
39	<p>中学校の制服について、細かい服装規制をやめて、もっと自由に選択できるようにしてほしい。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>制服は卒業式などの儀式的行事やテスト期間での着用など、時と場合、場所に応じた服装について考えさせるなど、教育活動の一環として、意義のあることと認識しています。</p> <p>なお、制服は学校ごとに、保護者や教職員などによる選定委員会で協議しながら主体的に決定しており、その決定については尊重すべきものと考えています。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり